

根木内歴史公園:湿地の観察会報告(2011/7/12 実施)

2011/7/18 文責：相澤

参加者：相澤、市川、高橋、三井、山田（洋）

“今日のお気に入りは何といってもウグイスの鳴き声。暑さを忘れさせるさわやかな声。緑の中から聞こえる声はこの公園の価値を高めるでしょう。”という市川さんの感想の通り、ウグイスの鳴く中で観察会を行いました。ウグイスは樹の上ではなく藪の中が好きな鳥なので、根木内歴史公園のような場所がお気に入りなのでしょう。今回は参加者のみなさんの紹介文を織り交ぜて報告を作成しました。

◇観察した動植物



カワヂシャ

今回は白く小さな花がカレンに咲きほこった様子で、ひっそりと2~3しか花が咲いていなかった前回より存在感が感じられた。(三井)

キシノウブ

七月のこの時期になると花も終わり長さ6センチぐらいの長楕円形の種が目につくようになります。繁殖力が強く、根でも増え、また種でも増えます。今回、3つの部屋にわかれてつまっている種をかぞえてびっくり、110個の種がありました。明治時代に渡来した外来種で、今では日本全土の湿地で野生化しているそうです。納得。(高橋)



トキワハゼ

道端や庭の雑草のイメージしかありませんが、パーゴラ前に群れて咲いて存在を主張していました。よく見ると白とうす紫に黄色がかすかにはいり、可愛い花です。(市川)



アメリカアゼナ

あぜ道で見られたトキワハゼと非常に似た種です。さらにアゼトウガラシという似た種も去年あぜ道で見られました。アメリカアゼナは中央池を掘削した2年前は非常に多かったのですが、遷移が進んだためか、あまり見られなくなった気がします。(相澤)



ミクリ

初めて見たので物めずらしさもあつたのか印象的でした。雄花、め花、ゴボウの花に似ているかなと思いました。7月に入ってからも実になっていて、ひしの実を集めた様なので変わった実だなと思いました。(山田)



マコモ

夏が来たな！と感じさせる大きくて勢いのある花です。イネ科でこれほど清涼なインパクトを与える種類は少ないのではないのでしょうか？あくまでも、個人的な印象ですが…私の好きな植物のひとつです。(相澤)



キアゲハの幼虫

体のもようが成虫をほうふつとさせていて、印象的であった。(三井)

幼虫の食草はセリで、根木内歴史公園にはたくさんあります。今回は、ナガコガネグモに捉えられた成虫も見られました。(相澤)



エサキモンキツノカメムシ

背中にハートを持つカメムシとして有名です。早口言葉のような名前が特徴的なのですが、何かもっと良い名前はないのでしょうか。「ハート模様の虫がいる！」と言われた時に「それはエサキモンキツノカメムシですよ」と言っても、質問した人に“?”マークが浮かんでしまいますよね。(相澤)



ご報告①

先月お伝えした紅白のオオバコについてですが、オオバコの花はまず白いメシベを出し、それが受粉するとその後紅いオシベを出すそうです。なので紅白のオオバコは先天的に色が違うのではなく、同じ個体でも時期によって色が変わるということだそうです。(高橋さんの情報を基に調べました。)

ご報告②

先月の報告で書いた謎の水田雑草ですが、今回大きくなった個体を確認してみると、どうやらヒメガマのようでした…お騒がせして申し訳ございませんが、抜いてしまっても構いません。